

神奈川県理学療法士会 リハビリ手帳普及事業について

神奈川県のリハビリ専門職である理学療法士会・作業療法士会・言語聴覚士の三士会が協働で取り組んできました「リハビリ手帳」が、2025年6月より正式に運用を開始いたしました。

本事業は、神奈川県在住のリハビリ対象者およびそのご家族が、リハビリ専門職による評価や助言を紙媒体として保管・活用することで、共にサポートする医療・介護従事者との多職種間における円滑な情報共有を図り、地域におけるリハビリ支援の質向上を目指すものです。

2019年に超高齢社会に対応した医療提供体制や地域包括ケアシステムの構築のため、県内でも地域ごとに医療・介護関係者が主体となってネットワークを整備し、多職種連携による包括的な医療情報の共有体制が推進されています。

一方で、クラウド上での情報共有が一部地域で導入されてはいるものの、多くの在宅医療・介護現場では依然として紙媒体による情報伝達が主流であり、DX（デジタルトランスフォーメーション）への移行が求められています。そうした中、リハビリ専門職としての対応力強化および提案力の向上を図るため、三士会が連携し、まずは紙媒体による「リハビリ手帳」を情報共有ツールとして普及させることを目指しております。

本事業の推進にあたっては、2020年より三士会が協働し、内容の検討やリハビリ専門職所属施設への案内、モニタリング調査やアンケート実施、各士会ホームページ・SNSでの情報発信、介護職へのアンケートなどを継続して実施してきました。

リハビリ手帳はA4サイズのルール式クリアファイルに綴じ込むことを基本とし、「基本動作」「ADL」「嚥下機能」「トイレ動作」など、10枚の基本シートで構成されています。その他に20枚の項目を用意しており、必要に応じて、各士会ホームページよりデータをダウンロード・印刷をおこない、クリアファイルに追加して使用することが可能です。また、クリアファイルの使用にこだわらず、必要なデータを各施設でダウンロード・印刷してご活用いただく方法も推奨しております。

正式運用を開始し、リハビリ専門職の間でも少しずつ認知している状況ですが、リハビリ専門職に関わる方が生きやすい生活を目標として、本人および関わる多職種の方とのコミュニケーションツールとなるよう進めていく事業となります。今後とも、リハビリ手帳普及事業にご協力をお願いいたします。

(公社) 神奈川県理学療法士会 露木

